

平成 30 年度長崎大学がんプロ養成基盤推進プラン在宅・地域医療実習

実習生：池辺 洋平

実習先：安中外科・脳神経外科医院

長崎宝在宅クリニック

ゆきなりクリニック

奥平外科医院

阿保外科医院

出口外科医院

実習期間：2018 年 10 月 15 日（月）～10 月 26 日（金）

実習生感想：

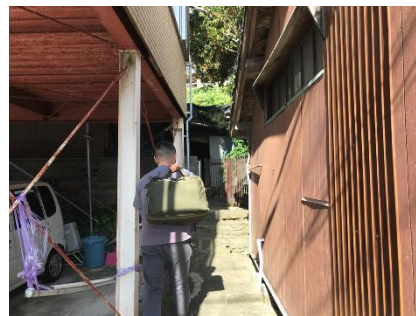
在宅・地域医療実習を終えて

在宅医療では、患者との長い期間の関係、終末期の深い関わりが印象的であった。病を治すだけでなく、精神的なケアも大事にすることが重要と感じた。患者さんにとって必要な時に必要な医療を提供できる、夢のようなシステムであり、必要とする患者は今後増えていくであろうと思った。

長崎市ではたくさんの魅力的な先生が奮闘しており、在宅 Dr. ネットワークが充実している。今後も拡大が望まれる。多くの施設で勉強させていただき、それぞれの先生方の素晴らしい診療を学ぶことができた。

① 安中外科・脳神経外科医院

脳神経外科がご専門である先生であり、脳卒中やてんかんをお持ちの患者を多く担当していらっしゃいました。多くの患者を訪問診療していて、大きな荷物を持ち、とてもパワフルである反面、患者の家族も含め繊細な気遣いをされていて、患者との距離の近さに驚かされました。



② 長崎宝在宅医療クリニック

最も長い、4日間お世話になりました。常勤だけで医師が3人もいるクリニックで、非常勤医師もいらっしゃいました。運転手付きで、ボスの松尾先生の電話には、ひっきりなしに往診依頼などの電話がかかってくる状態で各地を車で訪問診療・往診していらっしゃいました。ならの木というサービス付き高齢者住宅も経営されていて、24h ヘルパーがつく、往診対応でホスピスも兼ねているような施設でした。



医療の質を保ちながらの介護を行える、というにおっしゃっていました。長崎宝在宅医療クリニックの担癌患者の予後は67日程度だそうで、その中で85%の患者を看取りまで管理されているそうです。終末期患者にとってとても心強いであろう、クリニックでした。

③ ゆきなりクリニック

院長の行成先生は麻酔科がご専門だそうです。終末期の患者の疼痛緩和だけでなく、患者の話をしっかり傾聴し、精神的なケアも熱心に行っていたらっしゃいました。ホームホスピスをお持ちで、担癌患者に寄り添い、終末期のQOLを良いものとしていました。



④ 奥平外科医院

この日の天候は大雨で、靴もびしょびしょになり、訪問診療はついていくだけでも大変でしたが、奥平先生は淡々とこなしてらっしゃいました。往診の大変さを感じることができました。奥平先生は夜には、原爆病院で開催された、在宅診療に移行予定の患者の退院前カンファレンスに参加していました。多職種（主治医、訪問診療医師、看護師、ヘルパー）が参加していて、「患者が自宅に帰った後にどのような生活をするか」を会議されていました。患者家族も途中より参加し、より具体的な話をされていました。主治医より訪問診療医師を直接家族に紹介できるのも魅力だと思いました。



⑤ 阿保外科医院

阿保先生は私が学生時代に大学病院実習の時に世話になっていた先生で、その当時よりとても優しい先生という印象でした。タブレット電子カルテを用いた訪問診療、カルテ記載、処方決定、薬局にFAXまで行っていて、業務の多い在宅医療の業務を効率化されていました。

⑥ 出口外科医院

出口先生は長崎在宅Dr. ネットに大変貢献されている先生です。患者に対しても話を聞くことで人生の振り返りを促し、終末期の患者、その家族にとっての幸せを考える先生でした。長崎の在宅医療の高齢化が問題となっていて、今後は多くの開業医の先生に在宅医療を担っていただくよう、様々な活動をされているようでした。

どの先生もとても素敵な先生で、患者としては理想の在宅主治医と感じた。時代とは逆行しているかもしれないが、24 時間拘束の状態で親身に診療していることもわかり、患者としては心強いと感じた。お忙しい中ご指導いただき、本当にありがとうございました。



実習報告会にて